



病と闘う子どもと家族のサポートハウス

パンダハウス

News Letter

vol. 11 2020年9月号
(年2回3月、9月発行)

発行

認定特定非営利活動法人 パンダハウスを育てる会 事務局
TEL 024-548-3711
〒960-8157 福島県福島市蓬萊町八丁目 15 番地 1

HP <http://pandahouse.org>

facebook <https://facebook.com/npo.panda.house>

E-mail office@pandahouse.org

HP QRコード



コロナ禍における小児がん医療とパンダハウス

福島県立医科大学 小児腫瘍内科 菊田 敦

現在のコロナ禍において、医療が大変な状況にあることは容易に想像できると思います。

特に私達、小児がんを治療している者にとって、がんはコロナとは無関係に発症し、進行しますので治療の待機や延期はできず、多くのリスクを考えながら対応しないといけません。

現在も県外から数名の患者さんと付き添いのご家族を受け入れており、ほとんどの方がパンダハウスを利用しています。コロナウイルス感染のリスクは病院から出なければ低いと考えられますが、県外のご家族は治療の合間や、病状の回復に伴い、自宅に戻り、気分転換をすることも簡単にはできません。しかし、パンダハウスでは病院と同じように感染管理ができていますので、皆さんにパンダハウスでの宿泊を勧めています。私は毎週火曜日の朝に主治医の先生方と総回診を行っており、回診では主治医が見逃していることはないか、治療方針は適切かなど医学的なことに加え、週末など宿泊から戻ってきた子供たちにパンダハウスでの様子を聞くのが、私の楽しみの一つです。お母さんに何を作ってもらったか、美味しかったか、兄弟も滞在している家族には、兄弟や家族の様子などもよく聞くようにしています。幼い子供でもよく理解しており、パンダハウスで起きた沢山のことを話してくれます。

現在、パンダハウスは県外から小児がんの治療に来ているご家族でほぼ満室と聞いています。特に関西や関東からの患者さんに加え、山形県や新潟県など近県からの患者さんの利用も増えているようです。利用したご家族の評判は非常に良いものです。このように快適で心のこもった環境の提供は、福島医大における医療戦略の一環と考えてもよいと思います。

最後に今年の11月20日から3日間、第62回日本小児血液・がん学会学術集会/第18回日本小児がん看護学会学術集会/第25回公益財団法人がんの子どもを守る会 公開シンポジウムを合同で、福島で開催します。参加者は2000人ほどですが、コロナ禍の影響でWeb開催となってしまいました。国内外の最新の知見の発表や皆さんが困っていることに手が届く内容の学会を目指しており、企画の一つに「遠方から医療を受けに来る家族の支援」をテーマにシンポジウムを開催します。この中でパンダハウスからの発表も取り上げており、多くの皆様に聞いて頂きたいと思っています。



パンダハウスだより



新型コロナウイルス感染と新しい生活様式を取り入れた暮らしに戸惑いの大きい今日ですが、人とのつながりを改めて大切に過ごす毎日です。

入院治療をされているお子さまとご家族は、過酷な闘病生活に加えて、感染予防のため面会制限による家族に会えない寂しさ、付き添い交代が今までのように自由にできず疲労がたまるという困難に直面されています。入院中のお子さまの気分転換や付き添い者の休息がますます必要な状況と推測しています。

ハウスは感染リスクの高い方のご利用となるため、感染予防対策をしっかりと実施し安全な環境を維持することを第一としています。9月現在、心苦しい状況ですが、感染予防のためハウス利用者の制限をさせていただいています。

当会の活動を振り返ると、緊急事態宣言が出されていた時期は、感染の不安からハウス運営を継続するか否かスタッフとの話し合いはもちろんのこと、全国の仲間と情報交換をしながら活動を続けてきました。現在も試行錯誤、迷いながらのハウス運営です。ハウス清掃を担ってくださるボランティアさんに感染予防対策を行っていただいています。一方、毎年恒例のチャリティバザー、クリスマスプレゼント作成、定期的に行う予定であったサポーター募集説明会は一時休止を余儀なくされています。

新型コロナウイルスの流行時だからこそ、ハウスの重要性を認識しています。そのため、コロナ禍においてもハウスの運営を維持・発展させていくために、新しいかたちでの活動方法を模索しております。皆さまのお知恵やご支援をいただきながら、利用者の方にとって安全安心なハウスの提供を継続していけるよう励んでいく所存です。どうぞ、今後ともお力添えをよろしくお願い申し上げます。



利用者さんの声

パンダハウスは付き添いで疲れた心と身体を休ませてくれました。久しぶりにつかつかのお布団でゆっくりと寝ることができました。時間を気にせず、シャワーを利用できました。(病棟では掃除を含め 30 分と制限があります)夫婦の会話が増えました。(と言っても息子のことです)自宅からの往復だったら、こんなにゆったりと過ごすことはできなかったでしょう。頑張っている息子のそばに居られる、それだけでストレスは減り、余裕ある生活を送ることができました。毎日、ボランティアでお掃除をしてくれた皆さん、管理して下さる皆さん、そして頑張っている子ども達を応援して下さる全ての皆さんに感謝いたします。まだまだ、先ですが外泊可能になったら、息子と再度利用したいと思います。また楽しみが増えました、ありがとうございました。



急に宿泊させてもらって、とても助かりました。このような施設がある事は初めて知りました。とても良い施設だと思います。ありがとうございました。



この度、息子が入院となり、利用させていただきました。県外から福島まで距離があり疲れを癒すことが出来ました。コロナウィルス感染の関係で家族全員の面会は出来ませんでしたが、また次回利用させていただきたいと思っています。ありがとうございました。

ボランティアの声

パンダに週参 ボランティア 大瀧 由美子



退職後すぐにパンダハウスへ行き始めました。パンダが素晴らしい活動をしていることは友人の Y さんから聞いており、現職中でも何かできることはということで、いくつかのイベントに協力はしていたのですが、仕事の忙しさを言い訳に少し距離をとっていました。「退職したらパンダの手伝いをするよ」と Y さんと約束していたこともあり、顔を出すようになりました。基本週に一度の清掃が、私のボランティアになりました。私が行き始めたころは、ロシアからの長期滞在の方がいらして、国際交流もしていました。数少ない利用者さんとの関わりを通して、今更ながらにこうした施設の重要性を実感できました。パンダに清掃に入るようになってから、面白いもので、旅行などでホテルを利用すると水回りや隅を点検する癖がついてしまいました。その他、クリスマスプレゼント作りを通して、私も手芸の世界にデビュー。今では、ちょっとした小物はこの私が作るようになったのだから驚きです。リレーフォーライフへの参加は、私にとって年中行事になりました。私自身キャンサーサバイバーであることも大いに関係していますが、よく、リタイアした後、今日用(教養)のある生活をと言われるますが、まさに私にとってはパンダが居場所になりました。定期的ボランティア以外にも日程が合えば、どこでも顔を出しています。各作業を通して、ボランティア仲間との楽しいおしゃべり、意見交換など、人の話を聞けば聞くほど得るものは多く、少しは私自身も心の成長が出来ているかな?私でも何かの役に立てる、自分自身のステップアップにもなる、これほど役得な活動は無いかも知れません。これからも楽しく活動させていただければと切に願います。

賛助会員への加入とご寄附のお願い

賛助会員
年会費 個人(1口) 3,000円(1口以上)
団体(1口) 10,000円(1口以上)

会費 寄附金 振込先

郵便為替口座 口座記号番号: 02200-9-110330
加入者名: 認定特定非営利活動法人
パンダハウスを育てる会
※他金融機関から、郵便振替の場合
店名: 二二九(ニニキュウ)店 当座預金 0110330

ハウス清掃 ボランティアのお願い

パンダハウスは365日ご利用いただける施設です。利用者の皆さんに快適に過ごしていただくため、毎日居室、リビング、お風呂、トイレ等の清掃を行っています。是非、清掃活動にご協力をお願いいたします。

3月以降のイベント状況



残念ながら新型コロナウイルス感染拡大の影響にて延期や中止となりました。

4月 川内村かえるマラソン … 9月に延期/中止

5月 花植え ……………… 事務局にて対応

6月 会津バザー出店 …………… 中止

7月 ボランティア説明会 … 中止

8月 医大バザー ……………… 中止

リレーフォーライフ … 中止

9月以降のイベントにつきましては
決定次第お知らせ致します。